

米子市の環境に関する市民アンケート調査結果(市民編)

第2次環境基本計画の策定に当たり、環境に対する市民意識や家庭における省エネの取組状況等の変化を把握することを目的に、平成27年度に実施したアンケートと同様の内容でアンケートを実施しました。ただし、昨今の情勢を考慮し質問内容を追加、修正しています。

●調査概要●

調査期間	令和元年11月6日～11月25日
調査対象	米子市内居住の20歳以上方から無作為に抽出
配布・回収方法	郵送による配布・回収
配布数	3,000人
回収数(回収率)	1,161人(38.7%)

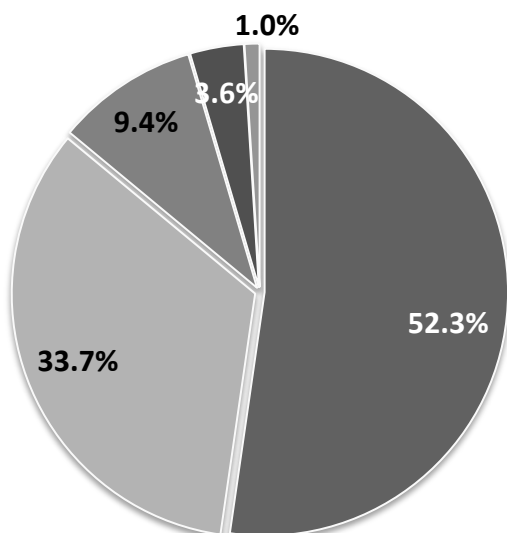
【身近な環境の様子について】

質問1. 住みやすさについて

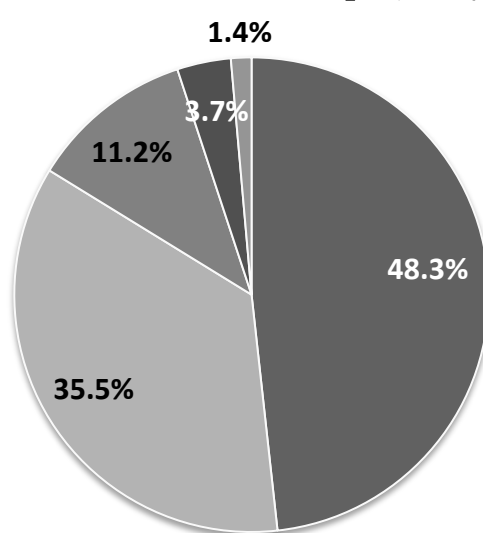
多少数値の増減はあるものの、平成27年度と同様の傾向でした。「住みやすい」または「やや住みやすい」の割合は合わせて86.0%で、多数が住みやすいと感じていると考えられます。

質問1.住みやすさについて

【令和元年度】



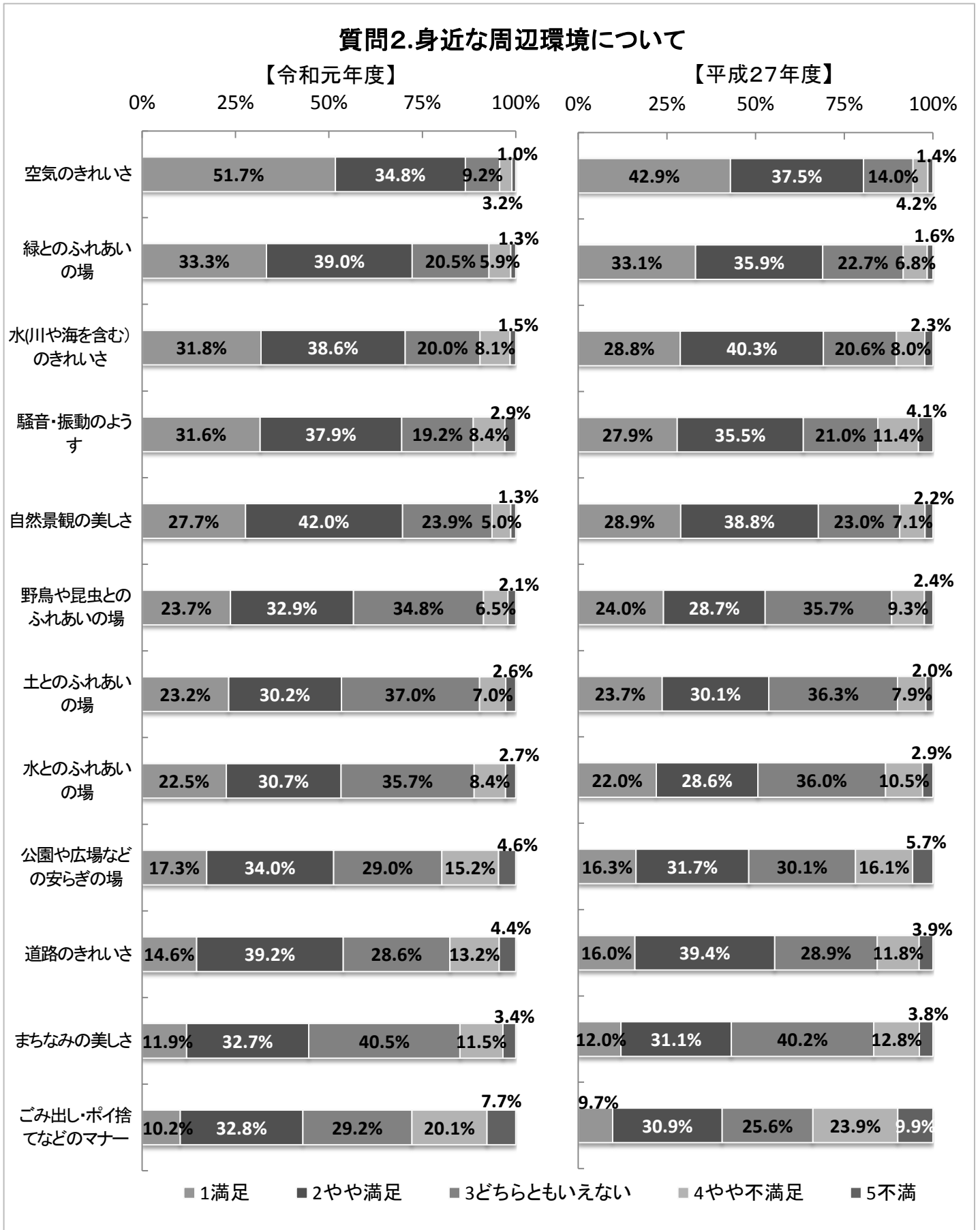
【平成27年度】



■ 住みやすい ■ やや住みやすい ■ どちらともいえない ■ やや住みにくい ■ 住みにくい

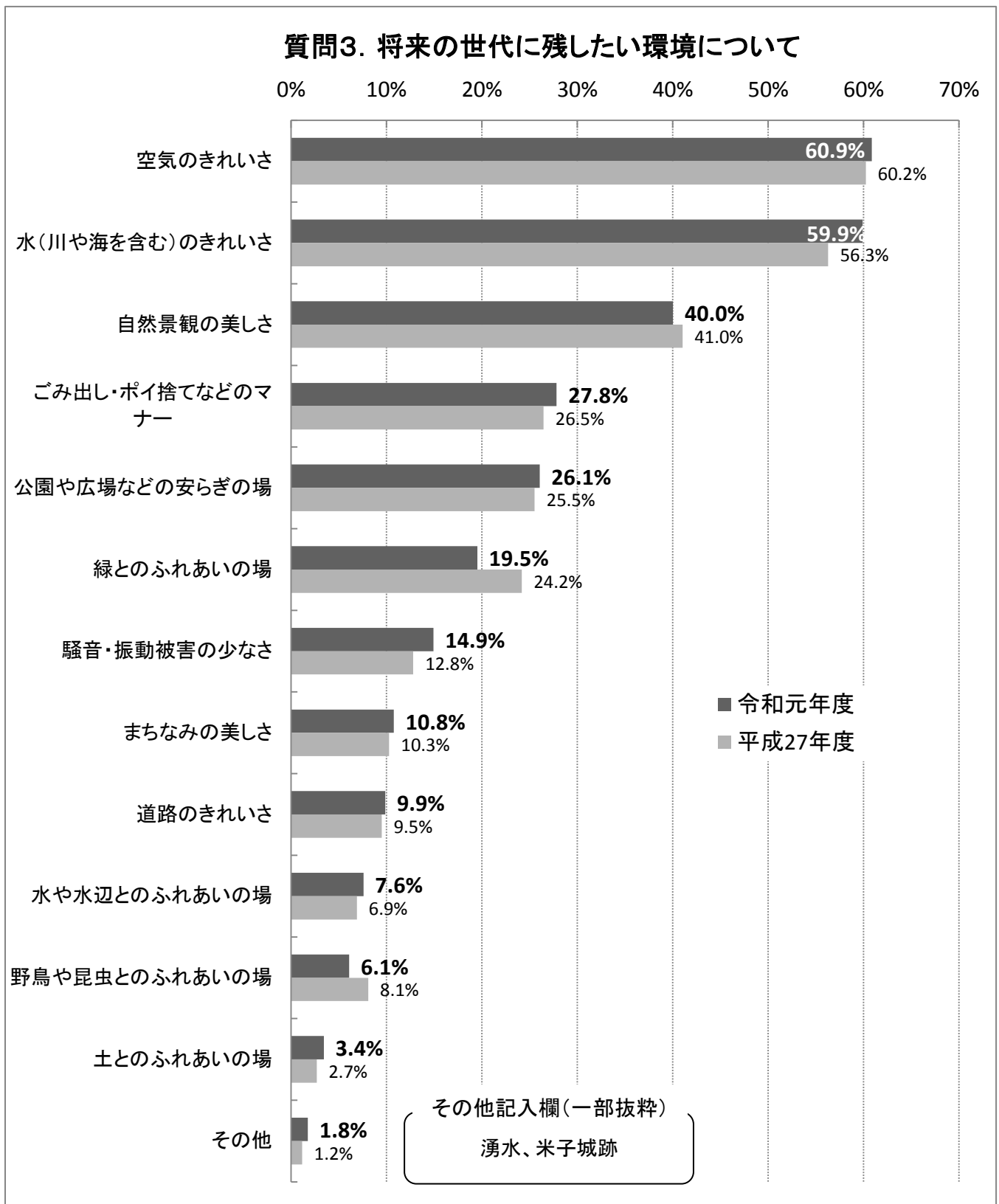
質問2. 身近な周辺環境について(複数回答あり)

多少数値の増減はあるものの、平成27年度と同様の傾向でした。「満足」、「やや満足」の割合を合わせると多くの項目で5割を超えました。



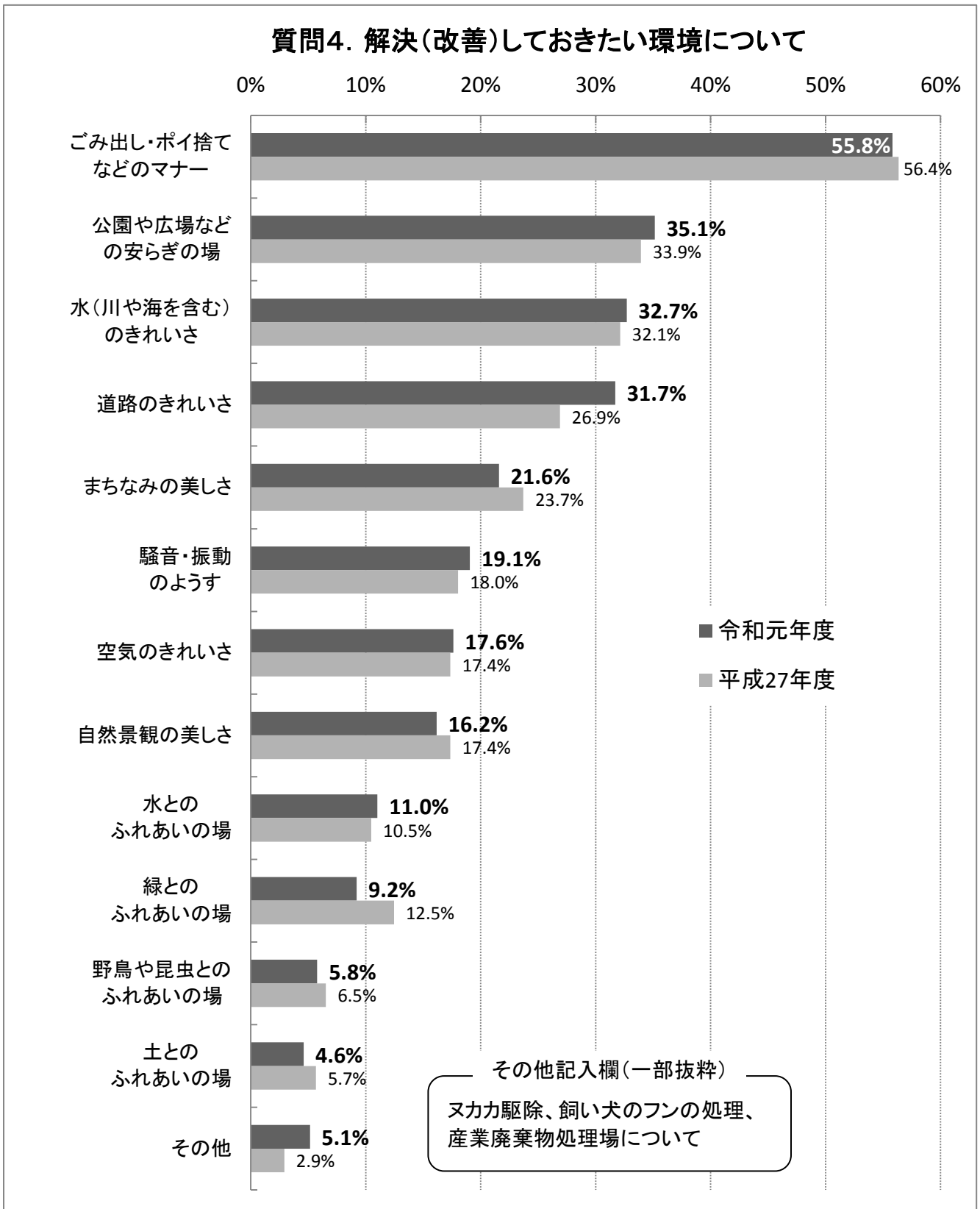
質問3. 将来の世代に残したい環境について(複数回答あり)

多少数値の増減はあるものの、平成27年度と同様の傾向となっており、特に「空気のきれいさ」について、将来の世代に残したいと考えていることが分かりました。



質問4. 解決(改善)しておきたい環境について(複数回答あり)

多少数値の増減はあるものの、平成27年度と同様の傾向でした。「ごみ出し・ポイ捨てなどのマナー」について、5割以上が改善したいと考えています。



【環境に対する取組について】

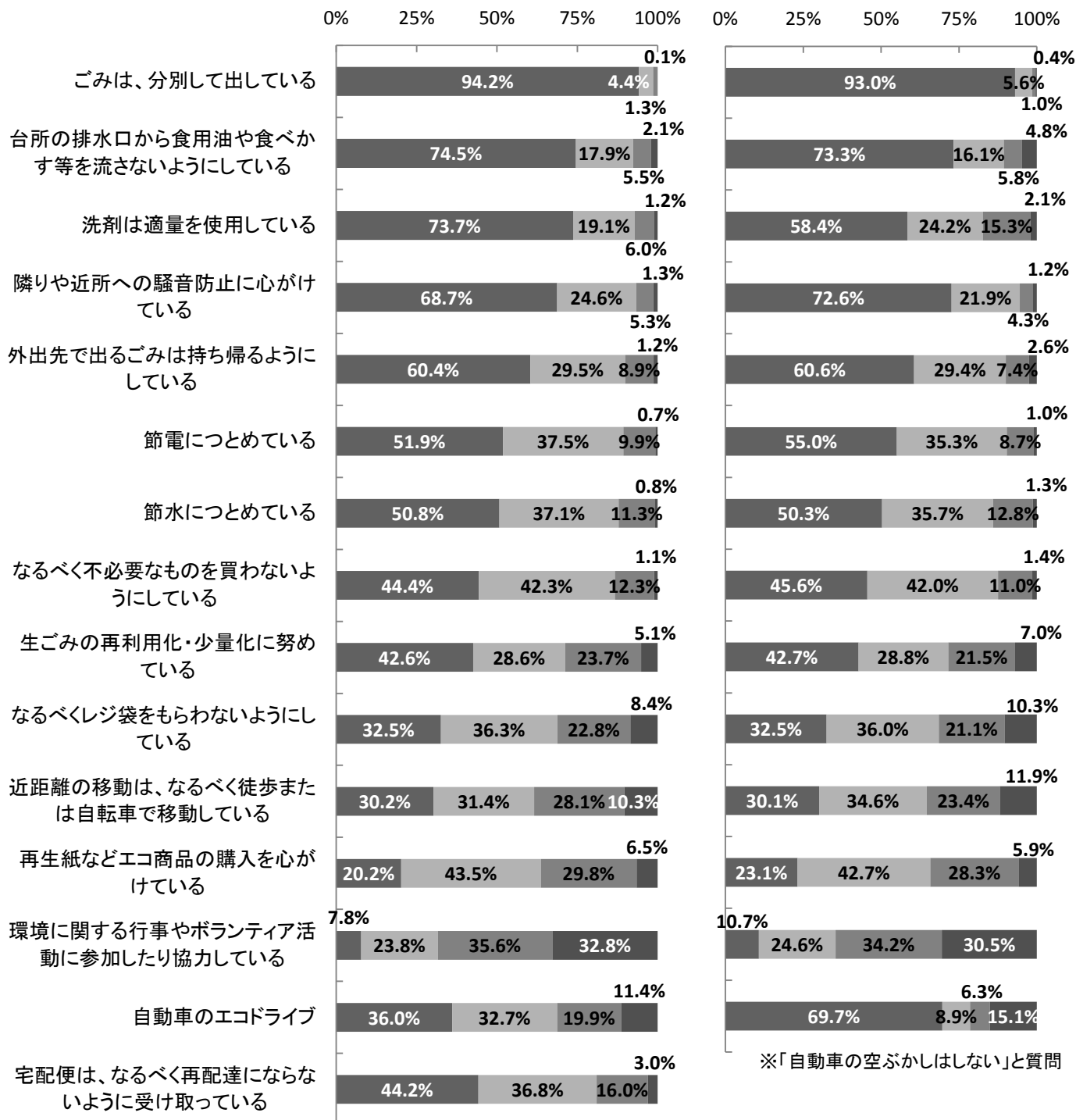
質問5. 環境にやさしい行動について

平成27年度に比べ、「洗剤は適量を使用している」について、「いつもやっている」が15.3%上昇しています。その他の項目は同様の傾向でした。

質問5. 環境にやさしい行動について

【令和元年度】

【平成27年度】

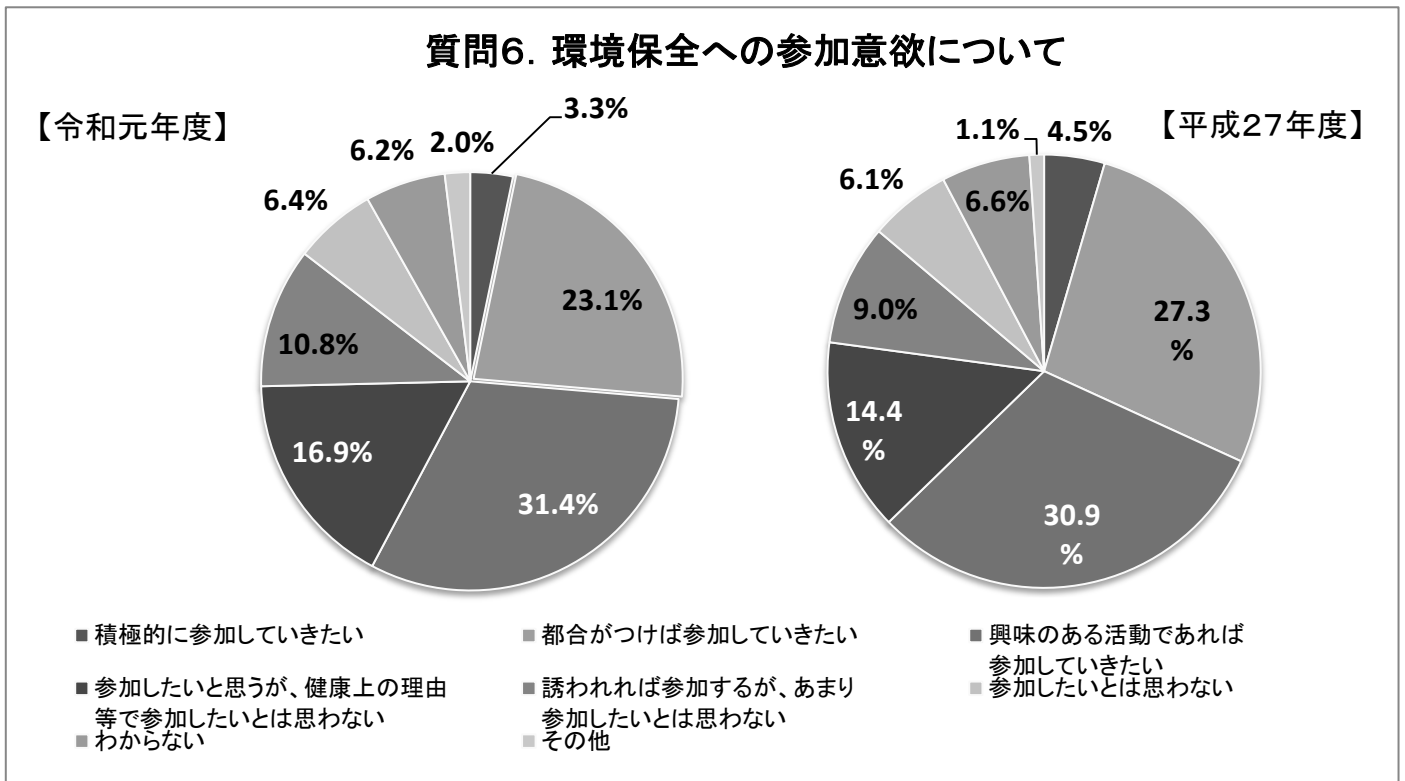


※「自動車の空ぶかしはしない」と質問

■ いつもやっている ■ 時々やっている ■ あまりやっていない ■ 全くやっていない

質問6. 環境保全への参加意欲について

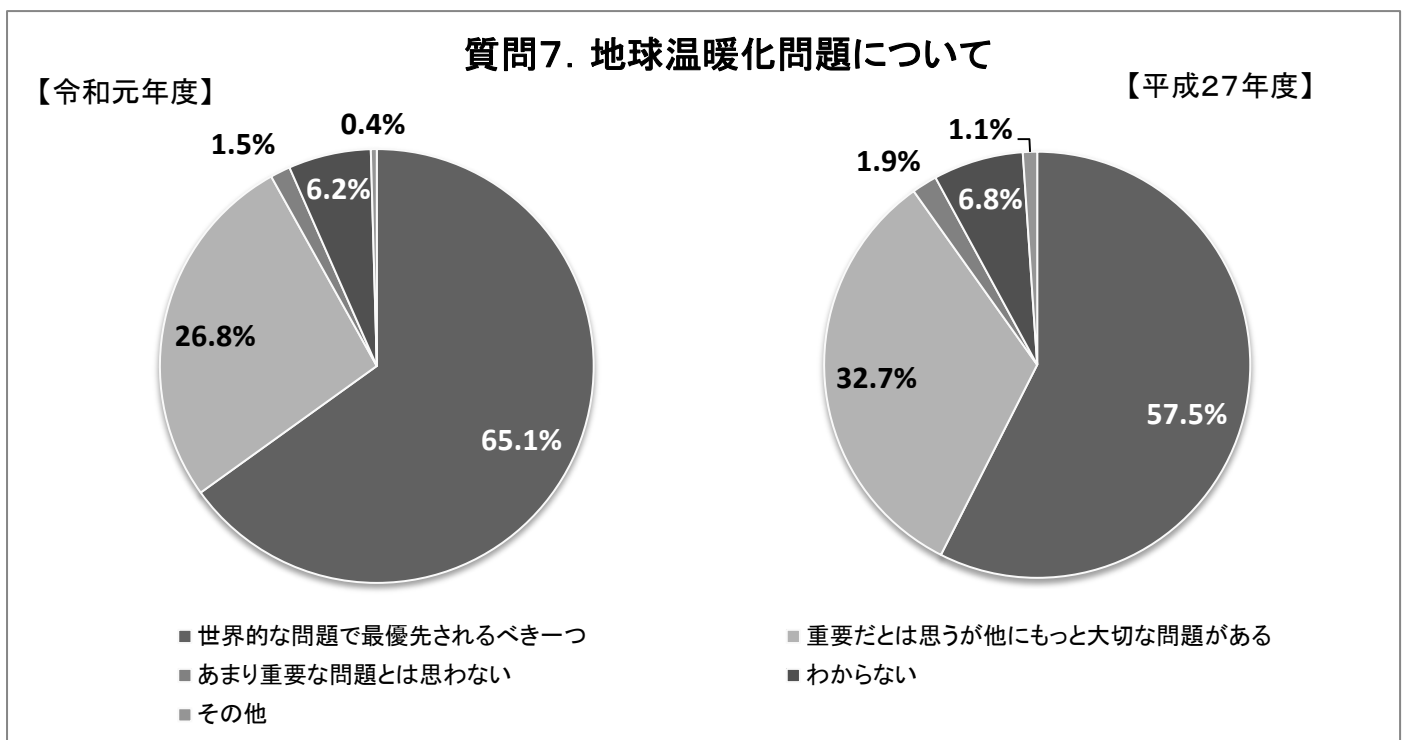
多少数値の増減はあるものの、平成27年度と同様の傾向となっており、5割以上が前向きに参加を検討しています。



【地球温暖化問題について】

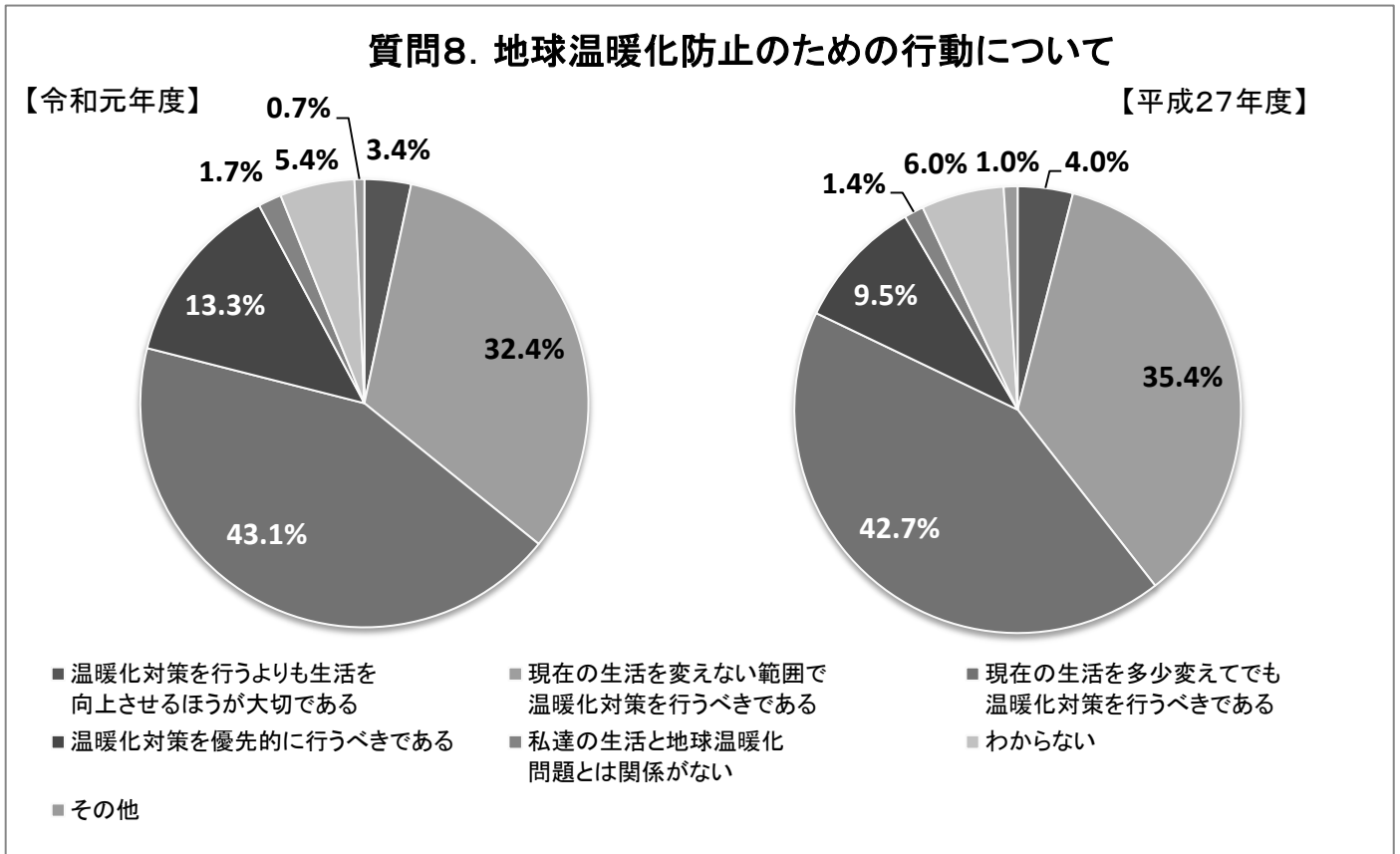
質問7. 地球温暖化問題について

平成27年度に比べ、「重要だと思うが他にもっと大切な問題がある」が5.9%減少し、「世界的な問題で最優先されるべき一つ」が7.6%増加しています。地球温暖化問題に対して、危機意識が高まっていると考えられます。



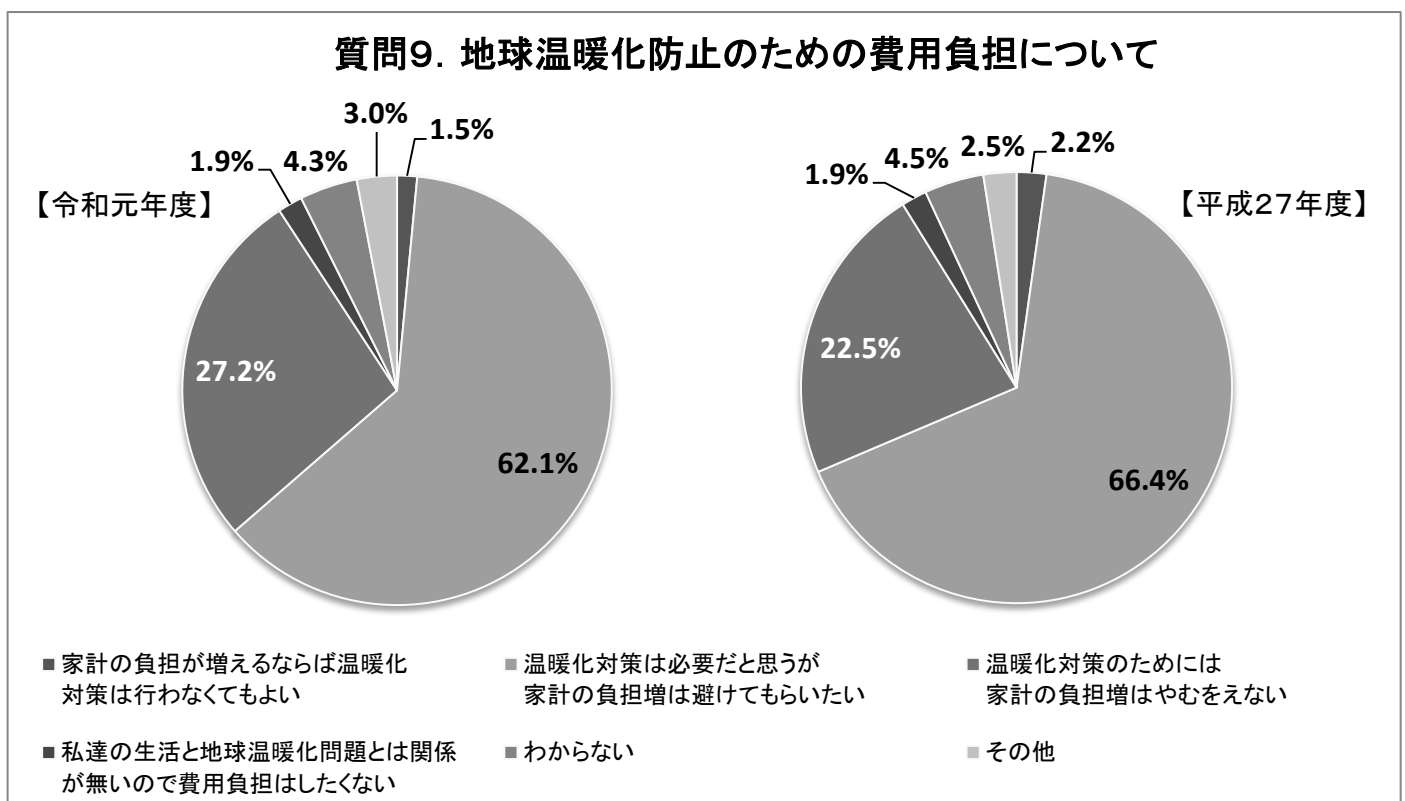
質問8. 地球温暖化防止のための行動について

多少数値の増減はあるものの、平成27年度と同様の傾向となっており、「現在の生活を多少変えてでも温暖化対策を行うべきである」の割合が最も高く、地球温暖化対策のための行動が求められていると考えられます。



質問9. 地球温暖化防止のための費用負担について

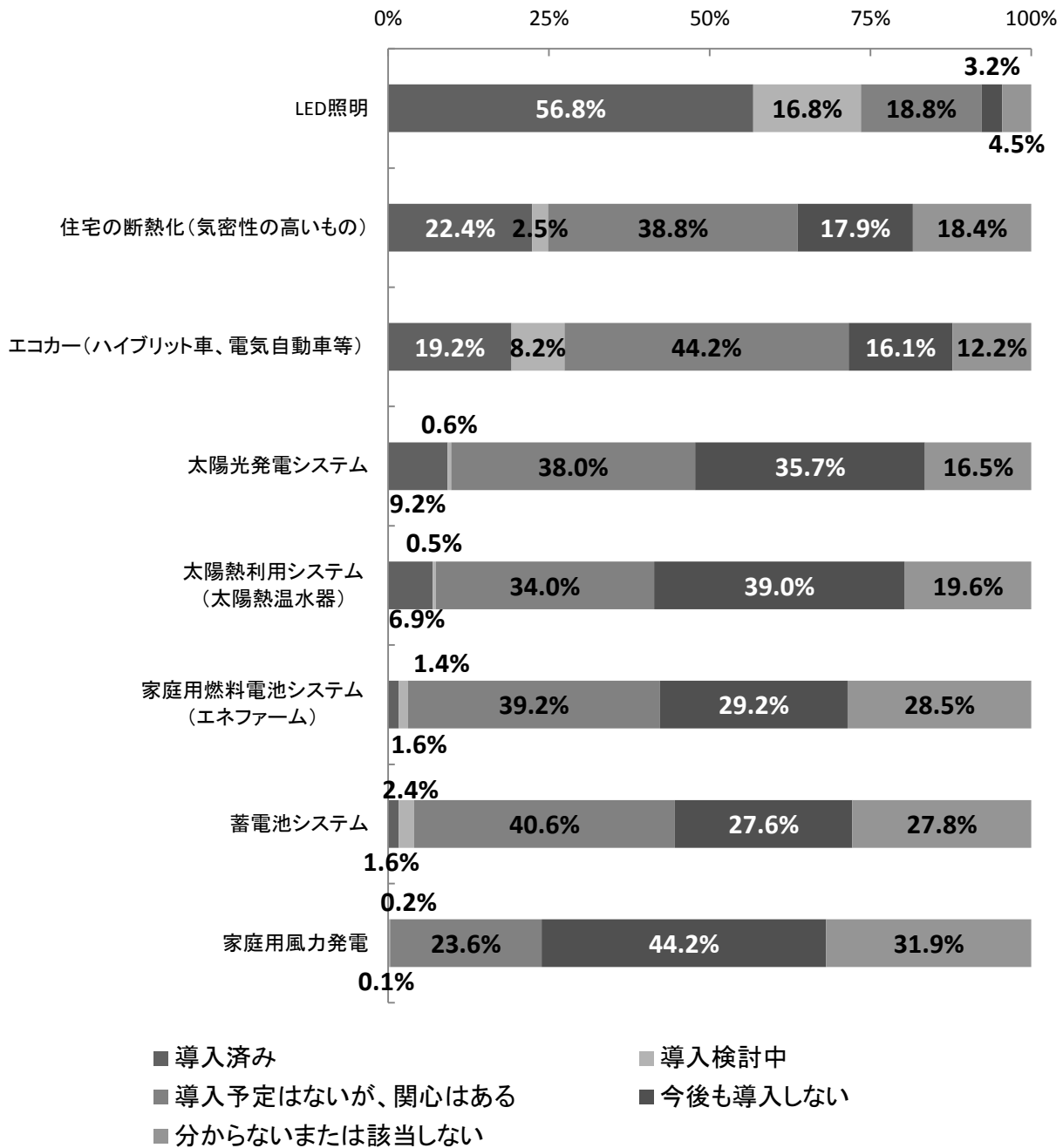
多少数値の増減はあるものの、平成27年度と同様の傾向となっており、「温暖化対策は必要だと思うが家計の負担増は避けてもらいたい」の割合が最も高いという結果でした。



質問10. 地球温暖化対策の取組状況について(令和元年度のみ)

LED照明に関しては、5割以上が導入済みでした。また、その他の機器について、「導入予定はないが、関心はある」の割合が比較的高い機器も多く、地球温暖化対策に対し、前向きに検討していると考えられます。

質問10. 地球温暖化対策の取組状況について

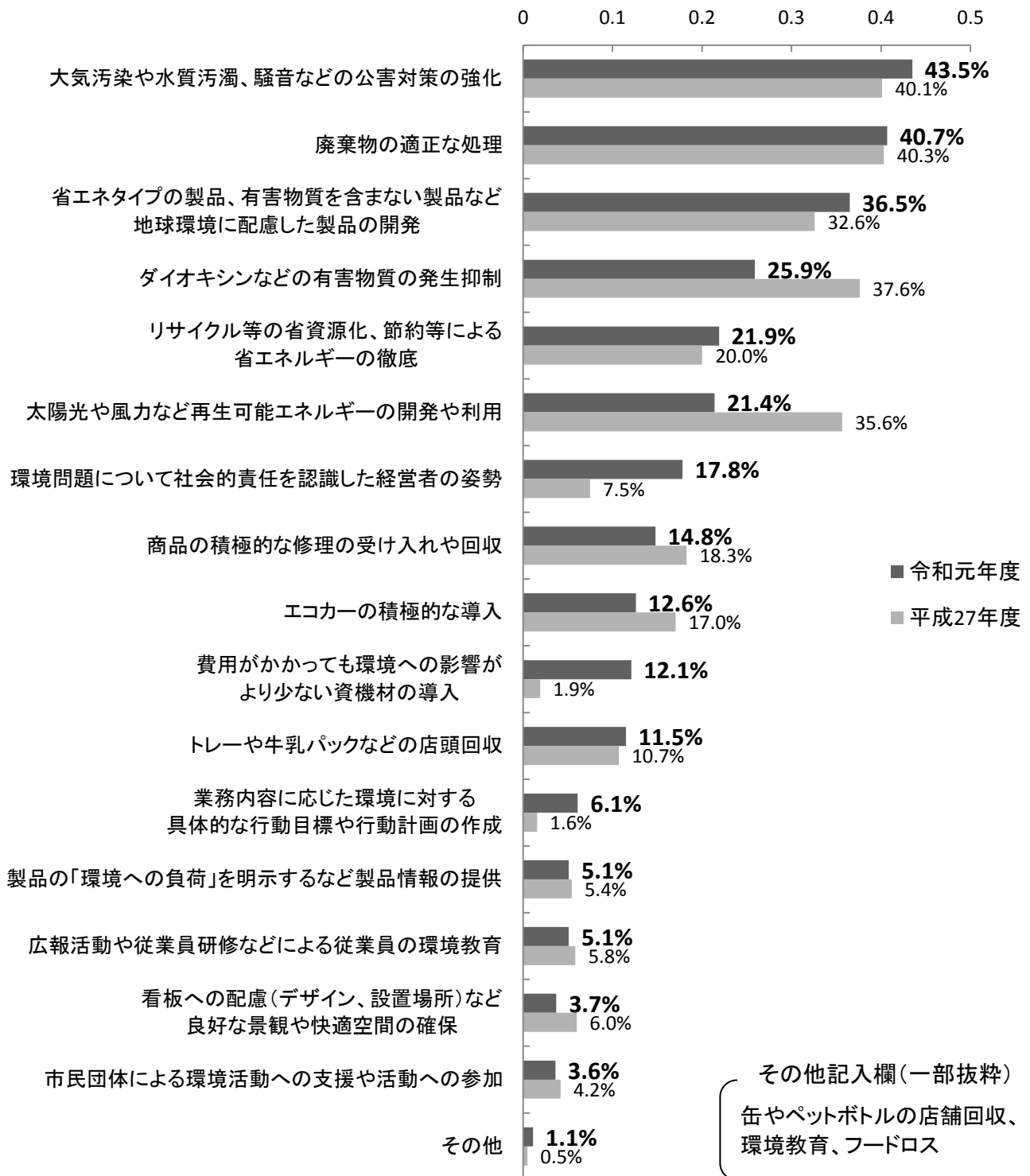


【事業者や行政に期待することについて】

質問11. 事業者に期待することについて

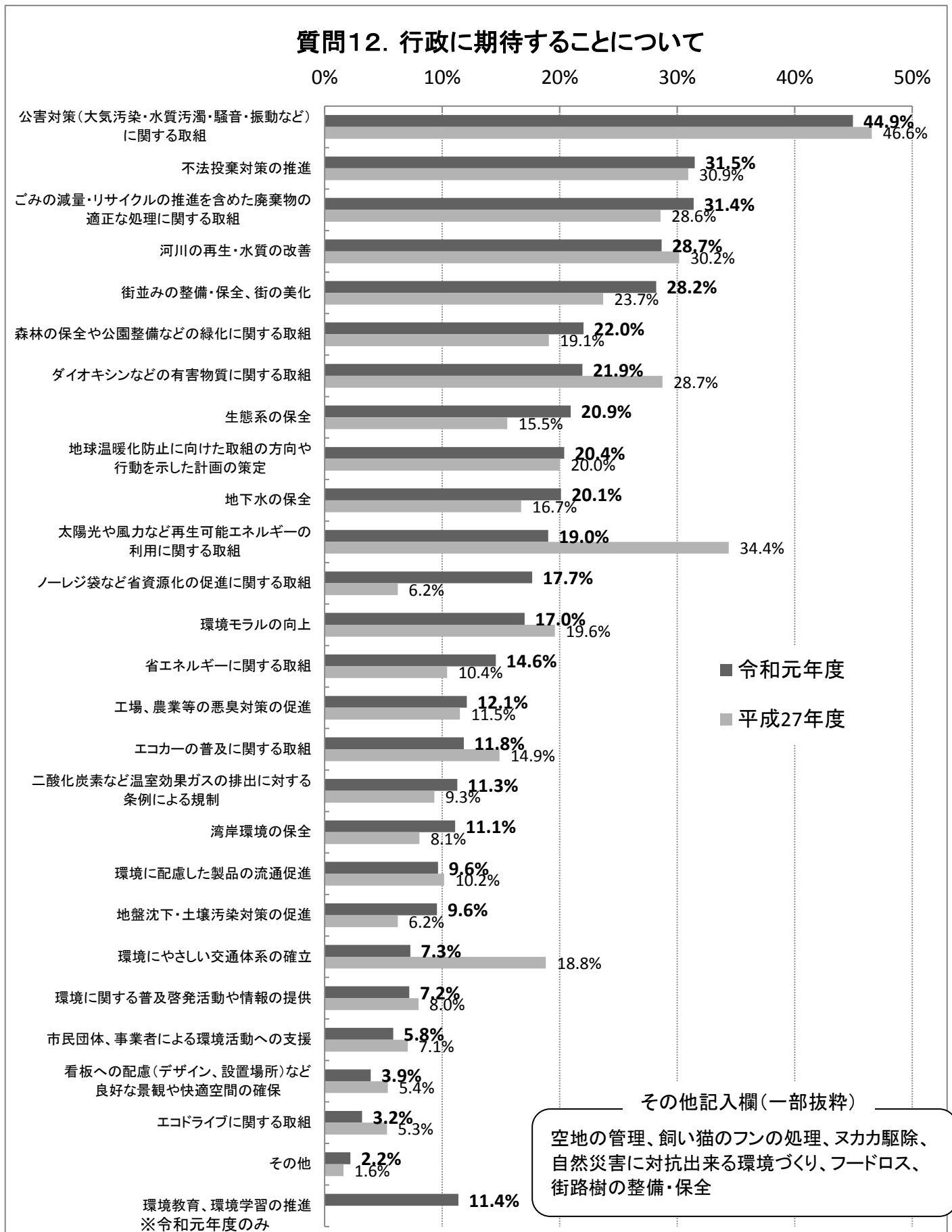
平成27年度に比べ、「ダイオキシンなどの有害物質の発生抑制」、「太陽光や風力など再生可能エネルギーの開発や利用」の割合は減少し、「環境問題について社会的責任を認識した経営者の姿勢」や「費用がかかっても環境への影響がより少ない資機材の導入」の割合が増加しています。

質問11. 事業者に期待することについて



質問12. 行政に期待することについて

平成27年度に比べ、「ノーレジ袋など省資源化の促進に関する取組」の割合が大きく増加し、「太陽光や風力など再生可能エネルギーの利用に関する取組」、「環境にやさしい交通体系の確立」の割合が減少しました。



質問13. 環境意識について(令和元年度のみ)

PM2.5と電力自由化の項目では、「知っている」との割合が5割を超えました。その他の項目においても、「知っている」と「聞いたことがある」の割合を合計すると、5割を超える項目が多く、環境問題に関心があると考えられます。

